

収録紙のご紹介

上海

- 1) North China Herald (北華捷報) : 1850 年創刊、上海初の英字新聞。告示、論評、規則、領事館や上海工部局の議事、判例等、船舶や外国の港湾情報、貿易、宣教師のレポート等、多彩な情報が含まれる。1941 年停刊。上海工部局の機関誌的存在。
- 2) China Press (大陸報) : 日刊紙。日本の英字新聞「ジャパン・アドバタイザー」の社主アメリカ人フライシャーや排日アメリカ人著述家として有名なミラード等によって 1911 年創刊。反英親米傾向の有力紙。
- 3) China Critic (中國評論週報) : 1928 年創刊。中華民国時代の中国人学者の論評の中でももっとも国際的影響力を持った。当時の社会的地位のある有識者が寄稿。
- 4) China Weekly Review (Millard's Review) (密勒氏評論報) : 1917 年 5 月に米国人ミラードが創刊した時事論説誌。中国から全世界にむけて内外情報を発信。特に日本政府や軍部の動向などを詳細な分析がなされている。反英・反日的と言われる。
- 5) Chinese Recorder: 1867 年、アメリカ人プロテスタント宣教師により中国にいる宣教師の為に創刊された。ミッションスクールの始まり、アヘン撲滅運動、義和団事件などが取り上げられている。第二次世界大戦への米国参戦を機に終刊。
- 6) Shanghai Times (上海泰晤士報) : 1901 年創刊。当時の上海の有力アメリカ系日刊紙。中国政府の補助を受け、のちにイギリス系変じ、親日的となった。
- 7) Shanghai Gazette (上海英文滬報) : Peking Gazette の主筆であった陳友仁によって 1918 年 5 月創刊。1922 年 11 月 China Press の夕刊紙である Evening Star と合併。

北京

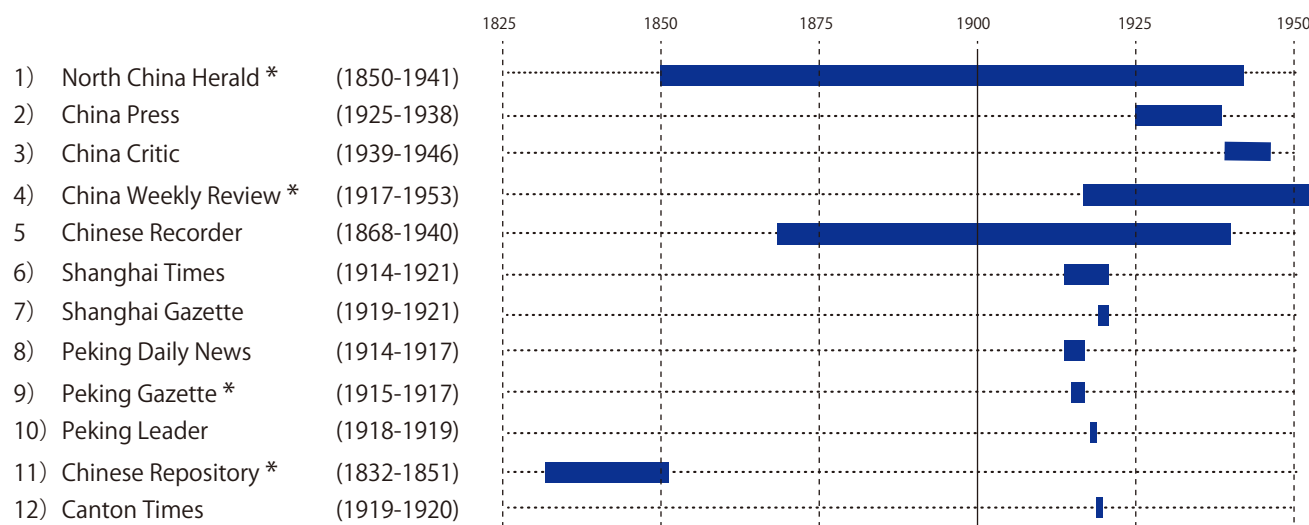
- 8) Peking Daily News (北京日報) : 中国直隸派機関の日刊紙。1909 年創刊、1937 年終刊。
- 9) Peking Gazette (京報) : 国民政府の外務大臣 陳友仁によって創刊された。中国の国家主権と国益を守ることを目的として刊行された。
- 10) Peking Leader (北京導報) : 1917 年 12 月、アメリカ人 G. Clark 創刊。学生階級の支持を得た。1932 年終刊。

広州

- 11) Chinese Repository (中国叢報) : アメリカ人宣教師 Bridgman が広州にて創刊。アヘン戦争のような重大事件を記録するほか、英米の中国研究者らの記事を掲載し西洋人に中国を紹介。1951 年終刊。
- 12) Canton Times (廣州時報)

タイトル別収録年代表

* 印は創刊から終刊までをカバーしています。

詳細はWEB サイト <https://myrp.maruzen.co.jp/book/ChineseNP/> をご覧ください

ー日本総代理店ー


MARUZEN-YUSHODO 丸善雄松堂株式会社

学術情報ソリューション事業部 研究支援コンテンツ開発部

<http://yushodo.maruzen.co.jp/>

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル Tel:03-6367-6128 Fax:03-6367-6240 e-mail: academicinfo@maruzen.co.jp

資料 No.12-2018-222 G.C.18858 2018-09

North China Herald ほか 重要な新聞を横断検索！

ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection

オンライン版

中国 英字新聞コレクション

19 世紀末から 20 世紀初頭の 中国の政治・社会状況の記録

ー日本総代理店ー


MARUZEN-YUSHODO

推薦します

Chinese Newspapers Collection と近現代中国史研究の可能性

東京大学大学院経済学研究科教授 城山智子

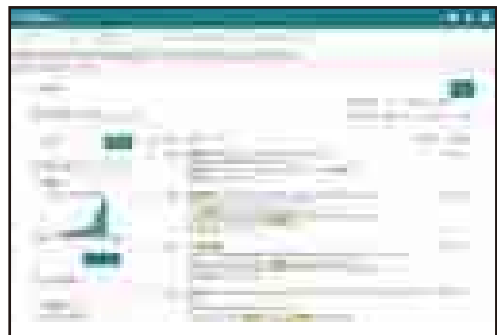
ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection は、清朝末期（1832 年）から中華人民共和国初期（1953 年）までに、中国で刊行された英字新聞、12 タイトルをデジタル化したデータベースである。

19 世紀以降、中国沿海部の開港場及び植民地である香港・マカオでは、多数の外国語新聞が刊行された。宣教師や外国商人、外交官を対象として発刊され、また彼らから集められた情報を記事にしたそれらの新聞が、近現代の中国史を研究する上で極めて重要な史料であることは、既に、半世紀前、香港上海銀行史研究を始めとする中国・アジアの通貨・金融史の先駆者の一人であったフランク・H・H・キング香港大学教授によっても指摘されている。Frank H. H. King ed., A Research Guide to China-Coast Newspapers (Cambridge, Mass.: East Asian Research Center, Harvard University, 1965) は、200 タイトル余りの外国語新聞をリストアップした上で、研究者の多くが発行部数が多く比較的手に入りやすく、また刊行期間の長い、China Mail (Hong Kong, 1845-1974) と North China Herald を利用するばかりで、その他の新聞には必ずしも十分関心が向けられていないことに注意を喚起している。今回のデジタル化・データベース化に当たり、North China Herald のみならず、発行地点と時期を異にするタイトルも含まれていることは、外国語新聞を利用してより広範な地域に関して長期にわたって研究を進める可能性が広がったという点でも、高く評価される。

本データベースの大きな特徴は、収録されている全てのタイトルにわたって、キーワード検索が可能になっていることである。研究テーマに関係するキーワードを入力するだけで、関係すると考えられる新聞記事を瞬時に収集することができるので、文献調査を効率的に進める上で極めて有効なツールであることは明らかである。しかし、**キーワード検索は、単なる省力化の手段であるに止まらず、社会経済史研究を行う上で重要な、データの定量化への可能性を拓いていることを、見逃すことはできない。**

例えば、一つのタイトルを選択し、そこで一つのキーワード、例えば「typhoon」を入力するとするならば、検索機能はその用語が含まれた文献を抽出すると同時に、年次月次での記事の分布を表示する。こうした作業を通じて、文献の内容だけではなく、何らかの災害や事件の発生頻度や季節性に関する仮説を構築することが可能になる。また、検索機能を通じて、新聞に掲載された、船の入出港、物価、金融情報などに関する様々な数量データを大量にかつ通時的に収集し、データベースを構築することができる。中国経済史は、1860 年代以降、中国海関統計・資料を利用することが出来るため、アジア経済史の中では比較的数量データには恵まれている。しかし、商品価格や地価、賃金などの経済史研究の基礎となるデータでも、十分に統計が揃っているとは言いがたい。**North China Herald を始めとする重要な新聞から検索機能を使って、統計を「作る」ことができるならば、大きな研究の前進を期待できる。**

このように、ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection は、文献調査を推し進めるだけではなく、新たなテーマや手法での研究を行う可能性を提示している。より多くの研究者と学生が、こうした機会に恵まれることを望みたい。



▲「typhoon」の検索例。年次月次での記事分布も表示。



推薦します

「The North China Herald」を読む―中国と日本、そして東アジア研究のための宝庫

神奈川大学外国語学部中国語学科教授 孫 安石

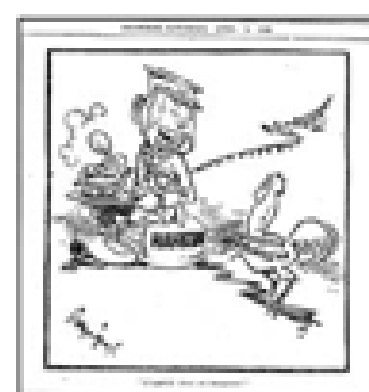
戦前期に中国で刊行された多くの英字新聞の中で、The North China Herald and Supreme Court & Consular Gazette（以下、The North China Herald と記す）は、最も長期間に亘って発行された新聞であり、その記事内容は上海と中国に止まらず、日本と朝鮮半島、さらに東南アジアを包括するものであることから、同新聞は東アジアの歴史研究のための「宝庫」と言えよう。同紙に、雑誌の The Far Eastern Review: Commerce, Engineering, Finance を加えれば、我々は欧米の人が東アジアで営んでいた日々の政治と経済、そして社会と文化活動がいかなるものであったのかを垣間見ることができよう。但し、**多くの場合、The North China Herald の利用には、言語の壁の他に一部の図書館にしか所蔵されていないというアクセス面のハードルを越えなければならなかったが、ここにきて The North China Herald を含む合計 12 種類の英字新聞の横断検索が可能になった ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection が登場したのである。**

また、日本では The North China Herald が上海で発行された欧米系の新聞のなかで「反日」的な論調を展開した代表的な新聞の一つとして取り上げられることが多いが、同新聞が最も重視していたのは、**欧米諸国が設定した租界の利益を守ること**にあったことを忘れてはならない。

その典型的な例が、蔣介石の国民革命軍が北京の軍閥政府打倒を目指した 1927 年の軍事行動（北伐）と 1928 年の済南事変の勃発と共に巻き起こった日貨排斥運動に関する同紙の論調であろう。1928 年 4 月 14 日の記事「Manifesto by General Chiang Kai-Shek to the Powers」や同日の風刺漫画を読めば、同紙が最も重視したのは、国民革命軍の「正義」や中国の「統一」という理想論ではなく、国民革命軍が排外主義をとらず、「外国人」の生命と財産を保護することを約束した、という蔣介石の声明文であったことがよくわかる。



▲1928 年 4 月 14 日 The North China Herald より「Manifesto by General Chiang Kai-Shek to the Powers（蔣介石による列強に対する声明文）」。



▲1928 年 4 月 14 日 Sapajou 画 The North China Herald の挿絵「『L'appétit vient en mangeant!』(食欲は食べるほど出てくる) — 中華民國政府が漢口のイギリス租界を回収し、フランス租界を回収しようとする動きを風刺したものだ。

私にとってもう一つ The North China Herald をめくる楽しみは、1923 年から同紙の政治風刺画を担当した上海の偉大な漫画家「Sapajou」(中国名：薩帕喬)の作品に出会うことである。

ロシア革命を逃れて 1920 年に上海に到着した Sapajou は、The North China Herald と The North-China Daily News に政治風刺のコラムの連載をもち、鋭いタッチで当時の中国と欧米諸国、そして日本が対立する国際政治を風刺する優れた作品を世に送り出したのである。これら Sapajou の風刺画は後に Shanghai's schemozzle (by The North-China Daily News, 1937 年) として刊行されるが、そこには中国の利権を侵略する日本の食欲さが余すところなく辛辣に描写されている。

今回の ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection の登場によって、一人でも多くの研究者と学生が中国と日本、そして東アジア研究のための「宝庫」に出会うことを切に願いたい。



▲1929 年 10 月 5 日 Sapajou 画 The North China Herald の挿絵「Shanghai Dreams of the Future (上海が夢見る未来像)」— Sapajou が描いた摩天楼と黄浦江にかかる大橋、使いやすい電話の登場は既に実現したもの。あと残っているのは、空飛ぶ人力車とジャンク船代わりの潜水艦のみ？